

## 第2回芸術文化振興ビジョン検討委員会 議事要旨

令和7年11月27日(木) 14:30~16:30  
ラッセホール5階「サンフラワー」

### 1 開会

### 2 開会挨拶

田中県民生活部長が挨拶を行い、芸術文化振興ビジョン改定に向け、素案についての審議を依頼した。

### 3 資料説明

協議に先立ち、第4期ビジョン（素案）の基本方向ごとの展開方向・取組等について、資料に基づき事務局及び関係部局から説明を行った。

### 4 協議

第4期ビジョン（素案）の展開方向、主な取組、ビジョン全体のイメージについては概ねの了解を得られ、委員より次のような意見があった。

#### 基本方向1（1）芸術文化を担い、育て、繋げる人材を育成する

- 芸術文化観光専門職大学やピッコロ舞台技術学校等で育成した人材が、どのように兵庫県の芸術文化にかかわっていくかをロードマップやストーリーのような形で示すことができれば、ビジョンの内容をさらに深めていくものになると思う。
- 専門職大学卒業生の県内就職を促すために、専門職大学と県内施設等が合同フォーラムを開催し、どのような仕事があるか知ってもらう機会ができればと思う。
- 芸術文化観光専門職大学は、県内就職の拡大をめざしていただきたい。直接芸術文化に携われる仕事でなくても、県庁・市役所や一般企業でも広報に携わるなど、大学の機能を活用した進路開拓をお願いしたい。
- Z世代文化部応援事業はありがたいと思っているが、参加できる学校が限られている。該当分野の部活動があり、指導する先生がいる学校になってしまうので、顧問のいない学校の生徒たちにどのように体験をさせていくのかも検討いただきたい。

- 音楽やパフォーマンスアーツの取組が中心で、美術やメディア、書道など様々な分野についても記載を増やしてもらいたい。
- 全体的に美術やメディア芸術に対する取組や支援が手薄に感じる。各基本方向における取組の中心が音楽やパフォーマンスアーツ主体となっている。

### 基本方向 1（2）芸術文化の拠点機能を高める

- 単年度予算が基本の行政において、兵庫県が新たな手法やスキームで財源確保を含めた長期計画による施設改修の具体的方法を示すか、リーディングケースとして検討していくことを表明できれば、他の自治体ではできない取組になる。
- 芸術文化センターの PAC 公演やオペラのチケット料金について、S 席や SS 席など高価格の席を設定する一方で、その他の席を値下げするなどエリア別の料金設定により全体の収入を上げていく方がよいのではないか。
- PAC の演奏会について、時には映画音楽特集や誰もが知っている曲を取り入れることも検討していただきたい。
- 芸術文化センターにおいては、多種多様な公演を実施していることに意義がある。例えば、落語は人気もありこのような取組みをもっと広げていけばよいと考える。
- 新庁舎等整備プロジェクト基本構想の中で、これまで県民会館が担ってきたギャラリー機能などが一定確保されると聞いているが、引き続き、発表の場の提供には配慮していただきたい。
- 県立美術館王子分館について、県立美術館本館と勘違いした事例があった。外国人など土地勘がない方のためにも、名称や案内方法を再考する必要があるのではないか。
- 県立美術館がどうしていくのかが見えにくい。学生に聞いても中之島美術館や京セラ美術館、金沢 21 世紀美術館の方がよく知られている。若者が行きたいと思う場所になっていない。
- 県立美術館のコンテンツについて、若者は双方向性や体験型のコンテンツに魅力を感じており、そのような取組を充実させる必要がある。今の世代にアピールできるようなコンテンツにアップデートしていく必要がある。
- 美術館は展覧会を実施する為の展示会場という機能の他にも、ワークショップや鑑賞授業を実施するなどの教育施設でもある。美術館に対しての予算を増やし(減らすことなく)、そのような取組を支援・拡張すると共に企画展などを更に充実させ美術分野の文化振興を積極的に進

め、裾野を広げて頂きたい。

- 若手作家の支援のために、美術館とギャラリーの中間に位置するアートセンター的施設と県が連携して国内外のアーティストの滞在制作に使用するなど、活用すべきと考える。また、兵庫の作家と海外のレジデンス施設とのエクステンジを定期的に行うことで、美術分野における兵庫県のブランドイメージ向上につながるのではと思う。

### 基本方向 1 (3) 芸術文化の発信力を強化する

- 歌舞伎や能と漫画やゲーム等のサブカルチャーを融合した芸術・舞台が盛んに創造され、若い人がどんどん来るようになっている。芸術文化センターはハイカルチャー中心であり、ハイカルチャーとサブカルチャー、ポップカルチャーを融合した公演が少ない気がする。
- アーティストバンクについて、県内のアーティストを紹介するページは必要。例えば、動画はアーティスト側が作成し、県は内容を確認して配信する仕組みであればコストも抑えられる。また、音楽以外の分野でも同様の取組を検討してもらいたい。
- SNS やショート動画の活用にあたっては、誰がどのように実施するかが重要となる。取組にあたっては、若者人材の採用など、広報に強い人材を採用・育成する視点が必要である。
- SNS や動画を活用した広報の運用について、フォロワー数が伸びなければ逆効果になる。文化系のインフルエンサーと協働するなどの取組を検討いただきたい。
- 基本方向 1 (3) ①「ICT 等を活用した多彩な芸術文化の発信等」の項目について、デジタル化を専門的に推進している部署が中心となって、地域文化に繋がりを持たせることができればいいと考える。各施設は ICT に関するノウハウを十分に持っていないことにより発信力が不足していることから、社会教委育施設はそれぞれの取組やコンテンツを提供し、デジタルに特化した部署がそれらを横断的に繋ぐことが理想。
- 若者による発信という意味では、崎谷委員が参加されている「おとみらい HYOGO」という若手音楽家による取組も参考になると思う。

### 基本方向 2 (1) 地域で多様な”場”を育て拡げる

- 県民芸術劇場やふれあい文化の祭典は、非常に集客もよく、お客さんにも喜んでもらっているので、事業継続をお願いしたい。
- 既存の芸術文化団体は活動が縮小しているので、既存団体への財政的支援を行い、若者と既存

団体が共存できる施策を展開してもらいたい。

- 以前実施していた芸術文化センターのオペラを地方ホール等で公演する取組を、県内5ヵ所ずつぐらいで再開することを検討してもらいたい。
- 地方ホールでの生配信は非常に面白い試みであるが、リスクがあるので、芸術文化センターオペラの録画配信等から始めて、ホール側は、舞台全面の大きさのスクリーンで投影し、イメージサウンドにできればなおよい。
- 地方ホールへの配信について、芸術文化センターに限らず、松方ホールをはじめ県内の多くのホールで優良な公演が実施されているので、県内のホールが相互に配信を実施していければよい。
- 以前実施していた市町ホール支援事業は、プロデューサー会議でも復活を求める声が多い。複数施設が協力して公演を企画することでスタッフの意気込みや公演の質が上がり、地域の活性化も期待できるので検討してもらいたい。
- 近畿総合文化祭について、開催年度だけの単発な事業で終わらず、翌年度以降についても予算措置や会場提供などに協働で取り組んでももらいたい。
- 文学に関する記述が薄い。俳句や短歌、詩、神話、伝説等は、芸術文化における重要なコンテンツであるため、ビジョンに盛り込んでもらいたい。
- 地域文化団体でも高齢化が進んでいるが、各団体それぞれが前向きに活動に取り組んでいる。小さな取組が線としてつながって大きな動きになることもある。その材料はたくさんあると思うので、しっかり取り組んでもらえたらいいと考える。

## **基本方向2（2）芸術文化による共生社会の実現**

- 障害者芸術の分野では、何よりも障害者芸術文化活動支援センターの活動が重要であり、持続的に進めていくためにもセンターの体制の充実が必要である。

## **基本方向2（3）青少年が本物の芸術文化に親しむ**

- 以前実施していた伝統文化ふれあい広場事業について、再開の方向で検討していると聞いたので、来年度からでも実施してもらいたい。
- 部活動地域展開に関して、平日の市町ホールは比較的空いているので練習の場として活用し

てもらいたいが、それについて県で何らかの支援を考えてもらえればありがたい。

- 具体の取組項目を見ると、小中学生や保護者がわくわくするような取組があまり読み取れない。例えば、「すべての施設は無料。地域によっては交通費も援助する」といった取組があれば、兵庫県の新しいビジョンはすごいと感じられると思う。
- 兵庫県では、小学5年生での自然学校、中学1年生のわくわくオーケストラ、中学2年生のトライやるウィークという体験学習の3本柱がある。これを基盤に、子供たちが様々な活動に「自ら足を運ぶ」「学校からでなく自分から行ける」取組をしていただきたい。
- 部活動地域展開の中で、子どもたちが気軽に多様な体験ができるような、目玉的な取組をつくってもらえればありがたい。

### 基本方向3（1）芸術文化資源の掘り起こしとシビックプライドの育成

- 若者文化の取り入れを一過性のものとしなため、アニメや音楽フェス等のポップカルチャーと他分野のものを組み合わせて相乗効果が生まれる取組をお願いしたい。
- 基本方向3（1）④「地域（シビック）プライドの育成」について、項目が4つだけで内容が希薄に感じる。シビック・プライドは、芸術や文化の存在に関わるものであるため、県民全員が主体者としてシビック・プライドを感じられるような文言があるといい。
- インバウンドを対象とした伝統文化体験などで県内に来てもらうツアーの造成などの方向性が見出せたらと考える。
- 例えば、豊岡演劇祭の開催時に幾つかの文化施設を楽しみながら北上していき、城崎温泉も楽しめる、といった芸術文化と観光をリンクさせた取組もあり得るかと思うので、様々な展開が検討できるような文言が盛り込めればよいと考える。
- 現代アートや体験型コンテンツが人気で、それらが観光と一緒にあって地域の活性化を促しており、県でももう少し時代の最先端を意識したソフトづくりが必要と思う。また、それをどのように発信するかが大切であり、ライブビューイングやオンデマンドなどを活用して、誰でもどこでも、現地に行けなくても見られるようにする多彩な発信方法が必要と考える。
- ネット上のバーチャルミュージアムはアクセス数が伸びにくいと聞いたことがある。内容の更新がないなど形骸化しがちであるため、意識していただきたい。

### 基本方向3（2） 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進

- 第3期ビジョンに記載されていた「兵庫津、北前船寄港地、西国三十三所など歴史遺産の掘り起こし」が素案では削除されている。日本遺産に限らず歴史遺産の掘り起こしは重要であり、第4期ビジョンでも取組を継続してもらいたい。
- 兵庫県には全国最多の古墳があるが、古墳についての記述がないのも気になった。
- 様々な資料において兵庫県の地図を用いて施策等を表現することがあるが、その際に、JR本線の路線図を加えてほしい。地方の赤字路線の存続の観点からも、沿線の地域振興が重要である。芸術文化でいえば、県内の施設を地図上にプロットすることで、それと鉄道路線の位置関係等が見えてくることから、芸術文化による地域の賑わいづくりの課題把握に役立つ。

### 基本方向4（2） 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する

- 県内市町ホールの担当者が集まるプロデューサー会議について、今後も引き続き芸術文化課の職員に参加してもらいたい。
- 連携体制について、県立の美術館、博物館等と、市町の文化ホールとの連携など、館種を超えた連携についても記載があるとよい。
- 各主体の役割について、県民の位置づけと、芸術家の位置づけの棲み分けが分かりにくい。また、県の役割の中で、教育機関など他分野が抜けていると感じる。
- 基本方向4（2）『県民、団体、行政等の各主体の連携体制を強化する』の展開方向について、県としての予算確保の姿勢を弱めただけという印象を持たれる可能性があるので、『…めざすとともに「芸術文化施設の自走力の向上に繋げる」とその目的までを記載した方がよいと考える。

### その他

- 第4期ビジョンの計画期間について、他府県の状況等も踏まえ5年間とすることについてはやむを得ないが、「芸術文化立県ひょうご」など基本的なことはもっと長いスパンで捉えるべき。
- 国の文化芸術推進基本計画の取組内容が詳しく記載されているが、これらが県のビジョンと紐づいているのかどうか。もし紐づいているのであれば、そのことがもう少し分かるように示していただければと考える。
- 対象とする芸術文化の範囲のメディア芸術の分野について、「映画、漫画、アニメーション及

びコンピュータ その他の電子機器などを利用した芸術」と記載されているが、現在、映画以外の映像表現が増加し、表現も多様化しており、映画が映像表現の主流とは言えない状況になっている。

○ 毎年度の進捗管理にも外部の視点が入るようになればよいと感じた。

これらの頂いた意見については、事務局で整理し、ビジョン案へ反映させ、各委員に確認の上、パブリックコメントを実施することとなった。

## 5 諸連絡

議事録の公開と次回の日程調整について、事務局から説明を行った。

## 6 閉会